

2021年8月23日

行政機関 各位

自宅や宿泊療養施設（ホテル等）の新型コロナウイルス感染妊婦に関する対応について

日本産科婦人科学会  
理事長 木村 正  
日本産婦人科医会  
会長 木下勝之

妊娠中に新型コロナウイルスに感染すると、特に後期（8か月以降、妊娠28週以降）の感染ではわずかですが重症化しやすいとされています。

もし後期の妊婦で妊婦に体調の変化や産科的な異常が発生し、入院療養が必要と判断された場合、各地域の新型コロナウイルス感染症患者に対する体制の実情に合わせ、連携の上、妊婦さんを適切に医療機関において診察できるように対応いただければ幸いです。やむを得ず自宅療養となった妊婦に対して、可能ならば毎日の血中酸素飽和濃度を測定できる環境（配布あるいは往診）を作ってください。

自宅療養妊婦が下記の如く、産科的な症状を認める場合や呼吸器症状を認める場合、医師の診察が望ましい可能性があり、内科医や救急外来受診等につなげていただきますよう、よろしく願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の症状については以下のような対応を妊婦向けに周知しております。

まず、以下の健康観察を行ってください。

- ①呼吸状態、心拍数や呼吸数の計測
- ②体温
- ③パルスオキシメーター（サチュレーションモニター）をお持ちの場合は、酸素飽和度（血液内の酸素の量：SpO<sub>2</sub>）の計測

(A) 以下の場合には、かかりつけの産婦人科の先生もしくは保健所に連絡してください。

- ① 1時間に2回以上の息苦しさを感ずる時
- ② トイレに行くときなどに息苦しさを感ずるようになった時
- ③ 心拍数が1分間に110回以上、もしくは呼吸数が1分間に20回以上

④安静にしても酸素飽和度が 93-94%から 1 時間以内に回復しない時

(B) 以下の場合は、すぐに救急車を要請してください。

①息苦しくなり、短い文章の発声も出来なくなった時

②酸素飽和度 (SpO<sub>2</sub>) が 92%以下になった時

(A) の場合には、かかりつけ産科医療機関自施設で入院療養、もしくは、各地域で整備された新型コロナ感染妊婦の搬送システム（周産期医療リエゾン、保健所、救急隊など）を用いて、周産期医療が可能な入院病床への早めの入院療養を促すようお願いいたします。

#### 【出典】

(1) 英国、National Health Service 「COVID-19 感染症を患った患者の方々が自宅で経過観察する場合」 <https://www.nhs.uk/conditions/coronavirus-covid-19/self-isolation-and-treatment/how-to-treat-symptoms-at-home/>

(2) 英国産科婦人科学会（RCOG）、「妊娠中の COVID-19 感染」、<https://www.rcog.org.uk/globalassets/documents/guidelines/2021-02-19-coronavirus-covid-19-infection-in-pregnancy-v13.pdf>